博多あん・あん通信

2010年06月1日　第11号発行
博多あん（安全）・あん（安心）リーダー会
（防災活動団体）
〒810-0041　福岡市中央区大名 2-6-46
市立青年センター5F　私書箱 52 番

あん・あん塾
第6期講座始まる

防災リーダー目指し87名が受講

防災リーダーを養成する「博多あん・あん（安全・安心）塾」の第6期講座が5月29日に開講、防災士を目指す87名がよみうりプラザ（読売新聞西部本社）で勉強を始めました。

始まった第6期あん・あん塾講座

県西方沖地震が発生した平成17年に福岡市と読売新聞西部本社が地域防災リーダーの必要性と養成について認識を共有、同年度から共催で開講に踏み切ったもので、5期までに416名が修了しています。

第6期生は12歳の中学1年生から75歳までの人たちで、平均51歳。うち女性が23名を数えています。11月末までに地震や風水害をはじめ救出、救命、自助、共助問題など32講座（62時間）を学びます。所定の講座を修了すると日本防災士機構の防災士受験資格が得られます。

初日は、関西大学社会安全学部長の河田 恵昭教授（元京都大教授）が「防災総論」について講義「自分たちの命とまちは、自分たちで守る」という基本的な心構えを求めました。今後、日本有数の大学研究者や専門家らが教壇に立ちます。

22年度　役員一覧

役職		氏名	期	組織担当	新任	備考
幹事	博多	小森　勝輝	1	代表幹事（会長）		
		岩佐　明美	1		新任	
		松村　秀典	1			
	中央	濱本　朋久	2	事務局長兼書記		
		中山　巌	2		新任	
		阿比留　哲	4	代表幹事（副会長）		
	東	吉水　恵介	4		新任	
		松嶋　慧一	1			
		伴　佳代	3		新任	
	南	碇上　辰繁	1			広報
		仲谷　シゲ子	1		新任	
		井上　浩一	5		新任	広報（HP）
	西	江崎　俊子	1		新任	交流
		松井　雅和	5	書記	新任	
		竹尾　宗二	1			広報
	城南	牧薗　典浩	4	事務局次長兼会計		
		黒岩　真理代	5		新任	
		別府　寿男	2	代表幹事（副会長）		
	早良	木村　健司	3			研修
		山本　光男	3		新任	広報
		水口　寛也	4		新任	研修
監査		藤田　昌克	1	監検	新任	
		宮本　雅信	1	監検		
相談役		石井　孝	1			
		鹿毛　勝昭	2		新任	
参与		岩永　芳人	読売新聞西部本社広報宣伝部			
顧問		坂本　秀和	福岡市役所　防災・危機管理課長			
		泉　正彦	福岡都市圏広域行政事業組合事務局長			
		渕上　章	スポーツ報知西部本社社長			

本田西支部長・防災士が急死

功績称え　ご冥福を祈ります

5期生の修了懇談会で談笑する在りし日の本田さん（09.11.14）

西支部長として活躍してこられた防災士 本田 卓実が実施している防災士試験で資格をさんが、心筋梗塞で災士試験で資格を4月3日に死去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

博多あん・あん塾の3期生で、受講終了後、日本防災士機構（会長・古川 貞で広報部会（4役割をこなす一方で広報誌「あ支部長に就任、その編集作業の際は深夜までパソ

2年度には西行日が迫る月末ん・あん通信」の作業を手がけら面目な人柄で、発れました。大変真

コンと〝格闘〟することも「たびたびあった」そうです。

大名小学校（中央区）で3月20日に催された防災イベント「みんなで防災」に参加、初期消火器操法の指導に当たるなど元気に活動しておられました。

22年度定期総会開く

新役員や事業計画決まる
会員相互連携で交流部会新設

平成22年度の事業計画案や予算、人事案件などを決める博多あん・あん（安全・安心）リーダー会の定期総会が、5月15日に福岡市中央区赤坂1の読売新聞西部本社1階「よみうりプラザ」で開かれ、リーダー会員の防災士ら約70名が参加しました。

開会に先立ち、突然の病に倒れてさる4月、不帰の客となった西支部長 本田 卓実防災士に対し、全員で黙祷、弔意を表しました。

このあと総会に移り、鹿毛 勝昭代表幹事・会長（早良）が挨拶の中で「様々な活動を通して市民の防災意識も確かに高まっています。今後、出来ることから、実効性のあがる実践的活動を手がけるなど頑張ってほしい」と述べ、更なる努力を促しました。

来賓の福岡市防災・危機管理課 坂本 秀和課長の挨拶についで5つの議案と2つの連絡・報告案件を一括提出、審議に入りました。

21年度事業報告の中で強調されたのは、事業促進の上で欠かせない要素を「コミュニケーションの活性化」と指摘した点。「会員相互のコミュニケーションの活性化に努め――」とし、さらに「会員以外との交流も図るとともに――」などと謳いあげています。

そうした考えに立って、よみうり防災セミナー事務局との連携による地区単独、または広域共同活動を進めてきた鹿毛氏が退任、後任に代表幹事・副会長の小森勝輝氏（博多）が選出され、2名の代表幹事・副会長も決まりました。（役員一覧表）

事業計画では、「自助」「共助」の基本理念を完全具現化に向けて前進させるとし、まず、支部活動の充実をトップに掲げて地域防災力の強化を図るとしています。広報、研修両部会に加え、支部エリアの枠を超えた広域活動を推進するための交流部会を新設、会員同士の防災知識の向上、技術的連携とコミュニケーションの強化を目指すことにしています。

福岡市と読売新聞西部本社の共催で開講している「博多あん・あん塾」への後方支援を通して6期生の養成に協力していくとの姿勢を明らかにし、他の防災諸団体との共同事業を推し進めることでリーダー会員以外との交流の深まりも図れると期待しています。

はじめ小、中学校、公民館での出前講座、それに防災士自身に求められる高度な知識の向上のための会員研修会の実施、会員間のコミュニケーション及び情報源の一つとしての会報誌を予定通り発行してきました。

21年度決算案、22年度の予算、事業計画両案の承認について行われた役員改選では、7つの支部ごとに推薦のあった幹事候補を正式に幹事として選出。これに伴い、代表幹事・会長の

NPO法人化検討を継続

また、NPO法人化については連絡・報告事項の中で昨年9月からの取り組み経過を踏まえた内容が示されました。プロジェクトチームで検討してきたものの会員アンケート結果でも分かるように、この問題に対する関心の高まりが十分でなく、こんご「法人化を意識しながら」会員の理解を深めてもらえるように取り組んでいくことにしています。

◇

総会終了後は同本社10階食堂で参加者による交流会。地域防災力の底上げ方法など前向きな話で盛り上がりました。

定期総会

ご挨拶　小森　勝輝・新代表幹事（会長）

「地域防災のリーダーとして私共は常に研鑽を積み、万が一の際は共助の前線で中核的役割を果す必要があります。

会員同士の連携と協調は特に大切なことで、その意味で今年度から広報、研修両部会に加え交流部会を新たに設けました。会員が支部の枠を超えて一同に会する中で、コミュニケーションを深め情報を共有化することによって、より良い実践的防災の道を目指せればと思っています。ご理解とご協力をお願いいたします」